

自然学類

学生の確保 (人)	年次		定員	志願者	受験者	合格者	入学者	
	1年次		200 ※ - (200)	810 ※ 2 (857)	810 ※ 2 (857)	236 ※ 2 (236)	226 ※ 2 (226)	
	編入学・再入学		- ※ - (-)	- ※ - (-)	- ※ - (-)	- ※ - (-)	- ※ - (-)	
学生の進路 (人)	卒業者	就職者	就職者の内訳			研修医	進学者	その他
			企業	教員	公務員			
	204 ※ 1 (200)	43 ※ - (55)	30 ※ - (41)	10 ※ - (5)	3 ※ - (9)	- ※ - (-)	137 ※ 1 (132)	24 ※ - (13)

・ () は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

1 自然学類の活動

[教育]

自然学類の運営については、教員会議からの委託を受けた自然学類運営委員会が毎月定例に開催され、各種事項が慎重かつ効率的に審議された。運営委員は各専攻2名で、任期2年、毎年1名ずつが交代するシステムである。運営委員を通じて各専攻に情報が伝達され、意見の集約が行われた。急を要する場合には、事前に電子メールで問題点を呈示することにより、迅速かつ円滑な運営を図った。

教育課程の整備・改善について、主専攻に関することは、数学、物理学、化学、地球科学の各主専攻のカリキュラム委員会で検討し、自然学類全体に関することは運営委員会で話し合った。自然学類案内誌とシラバスを今年度も発行し、ホームページに掲載して、自然学類の教育目標と教育課程、各授業科目の授業内容の周知に努めた。

早期卒業要件について見直しを行い、第2学期入学者に対する要件を4月入学者とは別に定めた。年間45単位を超える履修申請について、1年次76名、2年次14名から申請があり、認められた。主な申請理由は向学心から幅広く履修したい、教職科目を履修したい、等である。

入試をめぐる諸般の状況の変化に対応して入学者選抜方針を見直し、以下の改善策を講じた。(1)平成16年度入試におけるセンター試験と個別学力検査の配点の見直し。(2)平成17年度推薦入試の募集人員に関して、一校で推薦し得る数を2人に増加。(3)新指導要領に則した平成18年度入試におけるセンター試験の利用科目および数学と物理の出題範囲の設定。(4)平成18年度入試において後期日程の廃止。

平成5年度から行っている高校生対象の体験学習を今年度も実施した。数学、物理学、化学、地球科学の4主専攻が8月8日に実施し、参加者は267名であった。この体験学習は大変好評で、自然学類を学外にアピールする絶好の企画であり、今後も続けていきたい。

教育設備の維持・改善に関して、計算機端末室を拡充し、端末数を現在の40台から80台に増やす計画を学長裁量経費で、実験室の黒板の整備を第一学群経費で行った。

[学生生活]

学生生活における指導は、学類長、学生生活審議会委員、クラス担任、学生担当教官の連携により行われた。新入生オリエンテーションでは、本年度も例年通り外部宿泊施設で1泊2日の研修を行って、新入生が大学生活を円滑にスタートできるように指導した。8名のクラス担任、オリエンテーション委員、学類長、20名の上級生の協力により十分な効果を上げることができた。

ホームカミングデーの新しい試みである学類企画として、4主専攻で「オープン研究室」と懇談会を開催し、卒業生との親睦を深めた。

学業および学類内外の諸活動で優秀な成績を挙げた自然学類生を表彰する自然学類長賞を、学業成績優秀者4名および学類活動が顕著な者1名に授与することとした。

2 教員の教育業績評価の状況

自然学類では教員の教育業績評価を行うシステムは確立されていないが、学類運営委員が運営面で、クラス担任が学生指導面で、入試委員が入試業務で、それぞれ重要な役割を担っており、教育業績として高く評価した。授業評価に関しては、今や恒例となりつつある学生自身の手による授業評価を今年度も実施し、その結果を基に学生と教官の懇談会を12月19日に開催して忌憚のない意見を交換した。これは授業改善に非常に有効で、各主専攻が授業改善に真剣に取り組むとともに、学生・教官双方の意識を顕著に変えつつある。

3 自己評価と課題

学生の大学に対する期待の多様化に伴って、入学してくる学生の指向と学力が多様化してきた。現在、1年生対象の物理と化学の講義を専門向けと一般向けの二本立てで開講する等の対応策をとっているが、2006年度からは高校で新指導要領による教育を受けた学生が入ってくるので、多様化の状況に適切に対処できる学類教育課程の構築がますます重要となるであろう。

開学以来30年が経過して建物や教育設備の老朽化が進んでおり、所定の教育効果をあげる際に深刻な問題となっている。この状況を根本的に改善するため、全学的な見地から更新を行うことが望まれる。